

## RSNA2025 参加報告

札幌東徳洲会病院 阿部圭助

この度 RSNA2025 に運良く採択され、初めて参加する機会に恵まれましたのでこの場をお借りし報告させていただきます。皆さまご存知の通り、RSNA は世界最大規模の放射線学会で毎年 11 月末～12 月初旬にシカゴのマコーミックプレイスで開催されます。このマコーミックプレイスはとにかく広く、最初はその規模の大きさに圧倒されてしまいました。その中でも機器展示会場は特に広く、イメージ的には ITEM の会場が 2 つあるといったような感じかと思います。その機器展示会場では主に CT 関連を中心に見学して参りましたが、今年の CT 関連のトピックはやはり photon counting CT であったかと思います。機器展示や教育セッションなどを含め photon counting CT に関する事に今まで以上に触れることができ、とてもワクワクしたと同時に自身の知識もアップデートしていく必要があることも再認識しました。Canon ブースにおいても photon counting CT が展示されており、プロトタイプでは Precision ベースでしたが、今回展示されていたものは ONE ベースの構成になっているとのことでした。画像などの詳細な情報は公開されていなかったため今後の展開に注目していきたい思います。各社様々な CT であったりアプリケーション等がリリースされるなか、少しユニークだったのは micro X 社のモバイル CT でした。なんとこの CT、救急車や航空機にも搭載可能とのこと、特に時間との勝負である急性期脳梗塞においては威力を発揮するのではないかと思います。



Canon ブース

本題の学会ですが、ポスターセッションの Education exhibit というカテゴリで発表して参りました。発表といっても口述での発表はないので採択さえしてしまえば割と参加しやすいカテゴリではないかと思います（英語の話せない小生でも何とかしたので大丈夫です）。そもそも RSNA に挑戦するきっかけとなったのは画論で入賞した際に、審査員でもある辻岡勝美先生からお声がけいただいたところから挑戦するに至りました。辻岡ワークショップの開催や現地でのことなど辻岡先生抜きでは考えられませんでしたし、採択もされていなかったのではと思います。辻岡先生の中では、画論に入賞する演題は RSNA に十分採択される可能性があると考えられているようで、画論で入賞することは RSNA 採択までの道のりにおいて近道となるのかもしれませんが、まさに「画論から RSNA へ」を身

をもって感じることができ、辻岡先生ならびにキヤノンメディカルシステムズ関係者の皆様に改めて感謝申し上げます。



さて、RSNA が開催されるシカゴの気候ですが、とにかく寒いけど雪は降らないと諸先輩方々から聞いておりましたし、辻岡先生からも寒いところに慣れている札幌の連中は大丈夫！と言われていたので高を括っておりました。ところが今年の RSNA 会期中は大寒波の襲来で雪は降り積もりとにかく寒い。聞くところによると雪の RSNA は久しぶりだったようです。私の中のシカゴは雪も降るしとにかく寒い街となってしまいました。雪の降らない、澄み切った空気のシカゴを体感すべく今後も RSNA に挑戦していきたいと思います。以上 RSNA2025 参加報告でした。

